

2023年7月28日

町田市長 石 阪 丈 一 様

町田市廃棄物減量等推進審議会  
会 長 山 下 英 俊

2022年度第2次町田市一般廃棄物資源化基本計画の  
進捗点検の結果について（報告）

2023年度第2回（2023年5月25日開催）、第3回（2023年7月28日開催）町田市廃棄物減量等推進審議会において、2022年度の第2次町田市一般廃棄物資源化基本計画およびアクションプランについて進捗点検を行いました。その結果を、下記のとおり報告します。

記

2021年3月（2020年度）に策定した「第2次町田市一般廃棄物資源化基本計画」では、2030年度までの全体目標として「1人1日当たりのごみ排出量を2019年度比で7%削減すること」「総資源化率を40%まで高めること」「温室効果ガス排出量を2019年度比で30%削減すること」を掲げています。

2022年度の「総ごみ量（資源・集団回収量を含む）」は116,678トンで、前年度と比較して2,310トン（1.9%）減少しており、基準年の2019年度と比較すると3,916トン（3.2%）の減少となっています。

2022年度の市民1人1日あたりのごみ量は741グラムで、前年度と比較して16グラム（2.1%）減少しており、基準年と比較すると27グラム（3.5%）の減少となっています。

ごみの内訳をみると、「燃やせるごみ（家庭系）」は、63,454トンで前年度比1,220トン（1.9%）の減少、「事業系ごみ」は17,660トンで前年度比544トン（3.2%）の増加、「燃やせないごみ・粗大ごみ・有害ごみ」は10,521トンで前年度比577トン（5.2%）の減少となっており、事業系ごみ・有害ごみは前年度と比較して増加しておりますが、その他の項目は全体的に前年度と比較して減少しています。

2022年度の総資源化率は、32.6%となっており、前年度と比較して1.3ポイント増加しており、基準年度と比較すると1.4ポイント増加しています。

2022年度のごみ焼却による温室効果ガス排出量は、45,229t-CO<sub>2</sub>となっており、前

年度と比較して 10.5%増加しており、基準年度と比較して、33.9%増加しています。

第2次町田市一般廃棄物資源化基本計画アクションプランの進捗点検では、5つの基本方針に基づき、各取組施策の進捗状況の確認を実施しました。進捗点検においては、2022年度のごみ量の傾向だけでなく、施策を展開するまでの過程や取り組み内容等を考慮して評価を行いました。

評価の基準は「A」「B」「C」「D」の4段階とし、各委員の評価をもとに、平均値及び意見等を踏まえ審議会としての評価としました。2022年度の進捗点検結果は別紙のとおりです。

2022年度は、2021年度と同様に総ごみ量（資源・集団回収量を含む）が減少しました。家庭系の燃やせるごみ・燃やせないごみが減少していますが、事業系ごみは増加しています。家庭系ごみ、事業系ごみ共に新型コロナウイルス感染症の感染拡大を始めとした社会情勢の変化の影響があったと考えられますが、今後も総ごみ量の減少傾向が続くよう、更なる施策の工夫を求めます。

町田市廃棄物減量等推進審議会  
2022年度第2次町田市一般廃棄物資源化基本計画アクションプラン事業計画の評価

＜評価基準＞

- 【A】 ⇒ 大幅に取組が進んでいる（引き続き取り組む）
- 【B】 ⇒ 取組は進んでいる（もう少し取組を強化し進める）
- 【C】 ⇒ 改善（取組内容を検証し、効果的に進めるために、施策内容、実施回数、施策のスケジュール等の修正が必要）
- 【D】 ⇒ 新たな取組を検討し進めていく

※A=4,B=3,C=2,D=1として、各委員からの評価を点数化し、平均点により評価

<p>【基本方針1】</p> <p>市民、事業者との連携を強化し、協働による取組を進めます</p>	<p>評価理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍による制限が緩和されたこともあり、特に市民向けの普及啓発活動については、回数的には充実したものになっています。</li> <li>・3Rの具体的な話・行動事例を伝える講座や、事業者との連携姿勢に将来の可能性を感じます。</li> <li>・殆どの項目が目標値を達成して成果が見られる。良い取組を更に発信できるように活動してください。</li> </ul>
<p>評価</p>	<p>B (3.2)</p>	<p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生ごみ資源化団体の支援に関しては、早急に見直しが必要です。</li> <li>・各種ツールによる情報発信の実績は評価できるが、その効果の検証が必要です。</li> <li>・ごみ減量サポーターによる活動による効果が分かりにくいと感じます。</li> <li>・ごみ分別アプリの更なるPRが必要です。</li> </ul>
<p>【基本方針2】</p> <p>家庭系ごみの減量を進めます</p>	<p>評価理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品ロス削減に向けた周知活動、生ごみ減量のための補助を、計画通り進められています。</li> <li>・段ボールコンポストや給水スポットの整備など、一定の成果が見られます。</li> <li>・目標値に達していない項目が目立ちます。</li> </ul>
<p>評価</p>	<p>C (2.7)</p>	<p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・容器包装プラスチック以外のプラスチックを今後どのように考えていくかの議論も必要です。</li> <li>・これまでと同様の取組の繰り返しを行うのではなく、これまで十分でなかった取組をゼロベースで見直して進めるべきではないでしょうか。例えば、企業の協力を得て店舗や店頭での回収を強化するなどが考えられます。</li> <li>・リサイクルに関しては、幅広い年代層が対象となるので、その情報提供手段も検討が必要です。</li> </ul>
<p>【基本方針3】</p> <p>事業系ごみの減量を進めます</p>	<p>評価理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共施設のごみの削減では大きな成果が出ています。</li> <li>・準まちだ3R賞を創設し、4事業所を表彰したことは評価できます。</li> <li>・コロナの影響が大きくあまり取組が進んでいないように思います。</li> </ul>
<p>評価</p>	<p>B (3.0)</p>	<p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共施設や事業者から排出される事業系ごみは減少傾向にあるが、今後コロナ禍から経済活動が再開されてくることを考えると、今年度あたりから増加することも考えておく必要があります。</li> <li>・現在の適正排出の取組、優良事例の公表など大規模事業所に対する取組に加えて、小規模事業者への取組を強化が必要です。</li> <li>・訪問指導は、事業所との信頼関係を築く上で、重要な取組です。さらに理解が進むように取組の強化が必要です。</li> </ul>

<p>【基本方針4】</p> <p>環境に配慮した資源化施設を整備し、適正かつ安全な処理に努めます</p>	<p>評価理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 硬質プラに対する目標が達成できていないが、前年に対しては大きく改善できています。</li> <li>• 新しいごみ焼却施設の発電効率や発電量の実績は評価できます。</li> <li>• バイオエネルギーセンターの本稼働から約1年半経ちおおむね発電効率も達成されています。</li> <li>• 燃やせないごみに含まれる資源化物の選別制度など、足踏み状態の項目が目立っています。</li> </ul>
<p>評価</p>	<p>C (2.8)</p>	<p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 目標値に達している項目が少ないです。次年度以降、どのようにすればより成果が上がるのか、検討が必要です。</li> <li>• 市民サービスと収集体制のバランスについて慎重な議論が必要です。</li> <li>• 2023年度 of 取組方針・内容の中に、2022年度と実質的に変わらないものとなっている記述が目につきます。</li> </ul>
<p>【基本方針5】</p> <p>社会的課題への対応を強化します</p>	<p>評価理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 災害時等のごみ処理に関する対応については、職員行動マニュアルの策定や廃棄物処理業者との協定締結が行われ、評価できます。</li> <li>• 災害廃棄物、高齢者対応、不適切回収、不法投棄、美化活動のいずれも、計画通り丁寧に実施されています。</li> <li>• 社会的課題に対して、様々な取組を行っていることは評価できます。</li> </ul>
<p>評価</p>	<p>B (3.5)</p>	<p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 全体的に適切に検討が行われたり、キャンペーンが実施されたりしていますが、今後は、検討結果を実施したり、キャンペーンの成果を示したりしていく必要があります。</li> <li>• 高齢者等に対する効率的な収集体制の策定を期待します。</li> <li>• 不法投棄の効果的な防止対策の検討が必要です。</li> </ul>